

# 西来寺報

二〇二一年  
秋彼岸号

## 特集 本堂改修及び庫裡改築の中間報告

暑かった夏も八月下旬の雨天を境に秋の気配が色濃くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回は現在進行中の本堂及び庫裡の改修状況をご報告します。

先ず本堂の制震工事ですが、七月より工事にかかり、現在のところ本堂側面から背面にかかる周りの柱を全部交換して、強度を高め、壁の部分に荒壁パネルを取り付けました。また床下通風口（獣返し）を大きく取り木材保護をしております。

そして屋根のせり出しを支える材木であるハネ木を四十本ほど追加して重い瓦を支える屋根が下がらないようになりました。

今後、床の総張り替へと、床を支えるツカの交換、何本かの柱を金属の板で支えて高さを調整する工事、妻壁の補修（この下から雨

漏りがありました）制震のための仕口ダンパーの取り付け等々、今後いろいろな工事が続きます。工事完了は来年二月の予定ですが、それまでの間、ご本尊は庫裡に安置して、庫裡を仮本堂として様々な法要を勤めてまいります。

尚、今回本堂改修にあたり、本堂屋根裏や床下など普段目にすることの出来ないところを見られました。中には左の写真のように焼け焦げた木材が使用されていました。おそらく昭和二十七年建立

床下ツカの部分



の際、焼失した前の本堂の一部分を利用したのではないかと思われ、物のない時代、何とか本堂を建てようとする門徒さんや大工さんの思いが偲ばれます。

さて、次に庫裡の改修と渡り廊下新築の進行状況ですが、従来の庫裡の部分の改修はほぼ外壁の化粧直しと、屋根瓦の補修、軒樋の交換等が随時行われ、本堂の改修終了より早い時期に完了する予定です。また渡り廊下の部分ですが、こちらは、現段階ではほぼ完成に漕ぎ付きました。渡り廊下、多目的室、寺務所、男女トイレ及び車椅子の方のためのトイレなどが出来る上がり、現段階では建築検査を待つばかりですが、既存の庫裡に併設してある物置小屋の撤去など検査に必要な条件をクリアしなければなりません、また付帯工事として水道、ガス、電気の配線、火災報知器、セコムの再設置、水屋周りの整備など、まだ若干の時間を頂かなければなりません。しかし庫裡と新築の渡り廊下の部分は本堂の完成時期より先に使用できる予定ですので、早く完成した新築部分を披露して皆さんに便利に使って頂きたいと思っております。さて、今回の改修事業は皆様の

ご協力により順調に運んでおりますが、本堂、庫裡、渡り廊下という西来寺の建物の大部分に渡りまします。渡り廊下は新築で目立つのですが、本堂、庫裡は改修になります。特に本堂は制震工事ですので、完成しても一見変わらないようですが、工事としては大がかりな工事です。これにより本堂が後々まで伝わることでしよう。本当にありがとうございます。全て完成するまで今しばらくお待ちください。

屋根工事中の渡り廊下



【門徒Q&A】

Q 真宗では、ご葬儀の際に、『お清めの塩』を使わないんですか？ なぜなんですか？

A 真宗のみでなく本来、仏教では何かを清めるために塩を使ったりはしません。おそらくは神道の習慣と混同されてしまったものです。その他にも魔祓いの刀や一膳飯など、ご葬儀には仏教とは無縁の様々な迷信が行われています。しかし「本来、仏教では…」などと言う形式の問題ではなく、ぜひきちんとお考えいただきたい大切な話です。

まず、何を清めようとしているのでしょうか？清めなければならぬものとは一体何なのでしょう？お身内の、あるいはご縁のあった大切な方の死は、確かに、それはそれはつらく、悲しいものであることは間違いありません。しかし、果たしてそれは塩をもって清めなければならぬもの、すなわち穢れ(けがれ)なのでしょう？ 私たちは皆、いただいたこの命を生きています。その命には必ず限りがあります。頭では、当然、と分かっているつもりのことですが、なかなか実感として受け止め

ることができずにいるのが私たちです。つらいこと、悲しいことではありませんが、大切な方の死は、それを身をもって私たちにお示しくださり、気づかせてくださるものです。命の大切さ、ありがたさ。この命は決して自分一人のものではなく、代々受け継がれてきたものであること。そうしたことを実感として気づかせていただいた時に初めて、私たちは自分の生について真剣に考え、自分だけでなく、すべての命も同様に、どれほど大切でありがたく、かけがえのないものであるかに思いを至らせることができはるはずで

大切な方の死が、穢れなどであるうはずはありません。

葬儀場から自宅に帰った際、塩をまいて清めるそうですが、それは死という穢れを、自分の家を持ち込みたくないからという発想でしかないのでしょうか。なんと身勝手な無残な話なのでしょう。塩を使えば、自分だけは死を避けられるとでも言うのでしょうか？

南無阿弥陀仏に生きる私たち真宗門徒は、「死もまた我等なり」と受け止め、この命を精一杯生ききる思いを新たにすることが縁としていただきたいと思います。

【御正当報恩講参拝旅行】

本年は親鸞聖人七百五十回御遠忌にあたり、四月には御遠忌法要三浦組団体参拝が予定されており

秋彼岸法要のご案内

九月二十三日

(彼岸中日・秋分の日)

午前部：午前十一時より

午後部：午後二時より

◎仮本堂に於いて

・御懇志の受付は、大玄閣で致します。

・法要ご出席の方は、なるべく過去帳または法名軸をご持参ください。

・ご都合やご事情により、法要に出席できない方には、**申し経**(過去帳等)をあらかじめお預かりし、法要の際にご本尊に奉献)をお受けしますので、ご希望の方はお申し出ください。

ましたが、三月の東日本大震災の状況を鑑み、残念ながら団体参拝は中止とさせていただきます。しかし、十一月には本山にて御正当報恩講が厳修されます。

当西来寺におきましては、十一月二十八日の結願日中への参拝を主に、十一月二十七日、二十九日の予定で京都・湖東地区の真宗縁の地を巡る旅行を計画しております。

募集人員は二十名ほどとなりますが、ご案内パンフレット等も用意しております。ご希望の方はぜひお早めにお問い合わせください。

\*\*\*\*\*

東日本大震災復興支援を目的に、春のお彼岸期間中、本堂の賽銭箱を募金箱と致しましたところ、皆様から多くの善意をお寄せいただきました。三月末に一日集計をし、四月一日に十二万八千六百八十八円を第一回目として、日本赤十字社に寄付させていただきました。ありがとうございます。

現在も、玄閣および庫裡には募金箱を設置させていただいております。

引き続き、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。